

資料情報公開の
意外な落とし穴 2

業務と公開が別のシステムを刷新する時は、
「データの中身」を考えないと失敗する。

業務と公開のデータを連携できる
システムでも、解決できないこと

館の収蔵品情報を発信しなければならないのに、日頃の仕事が忙しすぎて「発信用の情報を別に作る」ような余裕がない。業務情報の中身を点検するだけでそのまま公開できるシステムなら大丈夫と考えていたが、ようやく導入が実現。これで問題は解決...と思っていたら、新たな、そしてさらに重大な問題が――

今回は、普通に起こり得るお話をひとつ。結論から言えば、原因は元のデータ及びシステムと、新たに導入するシステムの「仕様の違い」にありました。

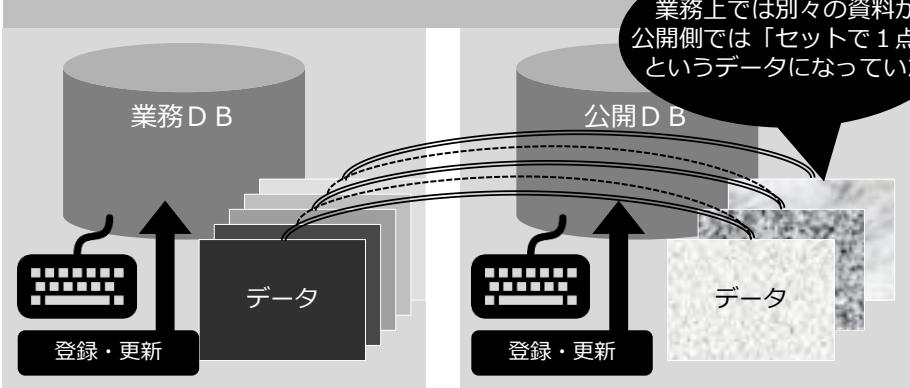
同じ内容のデータでも
「解釈」が違ふと...こうなります。

業務用の情報は、すべて外部に出すものではありませんから、内外の情報を比較すると「まったく同一」にはなりません。業務情報と公開情報が違うのは、むしろ当たり前なのです。しかし、「**データが作られた概念**」そのものに違いが生じると、**コンピュータが右往左往することになってしまう**のです。

さて、この館では、公開用のデータを「別に登録する」形式のシステムを長く運用していました。また、公開側と業務側のデータはそれぞれ別のシステム担当

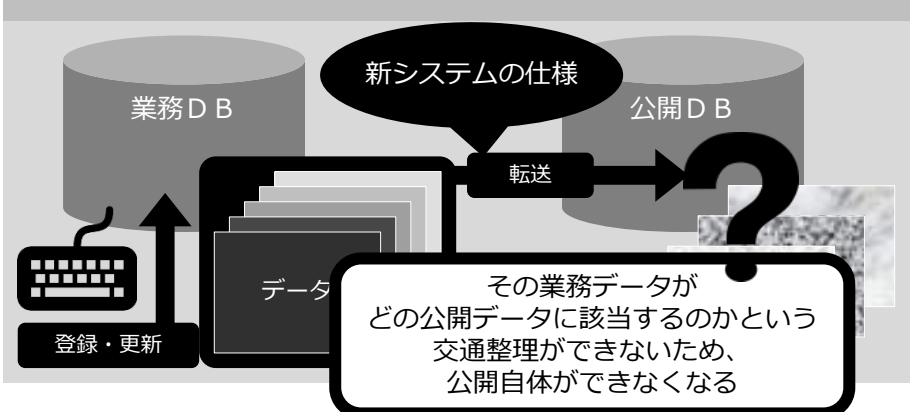
【旧システム】

- 管理データと公開データは別々に登録・更新する仕様
- 別運用の期間中に、管理と公開のデータ不一致が発生



【新システム】

- 管理データと公開データが連携する仕様。管理システムからの操作で公開データが更新される。
- 登録済みデータが不一致のまま、無理に転送しようとするとデータが錯綜し、正常に転送が完了しないことも。



者が管理していたもので、まるで異なる内容になっていました。たとえば、業務システムでは数量が「5点」であるのに、公開システムでは5点セットで「1点」とカウントしていたり。

カップとソーサーとスプーンがバラバラで登録されていて、その組み合わせたものが「コーヒーセットA」となっている場合、そのカップがどのセットに入っているのかをコンピュータが自動的に判断することはできません。こうなると、データの齟齬の解消のためにマッピング（照合）作業を行わなければなりません。結局、それは学芸員の負担となるのです。

担当のSEに
早い段階で相談を

このような問題は、初めてシステムを導入するケースではなく、むしろ**すでにシステムを運用していて、異なる仕様のシステムに変更する時に起こりがち**です。

開発者がデータの詳細を把握しないまま開発が進んでしまうと、「データを公開できないシステム」になりかねません。システムを乗り換える際には、データの中身を新しい開発業者のSEに確認してもらい、相談されることをお勧めします。